

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2023/04/1ver)／アクションプランシート（経営学部）

	基本方針					
	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	1. 高等教育機関としての役割を認識し、教育・研究・社会貢献に努める。教育面においては、学生一人ひとりを社会の責任ある担い手として育てていく。すなわち高い専門性と幅広い教養を身につけ、創造性・独創性・倫理観・自ら成長する力を持つ人材として育成する。研究面では真理の地道な探求から新たな知見の創造に努め、成果を社会に公表する。これら教育と研究によって社会に貢献するとともに、その過程において地域社会との関わりを強く持ち社会貢献に努める。					
	2. こうした活動を積み重ねることにより、経営学部の地域社会における存在価値の増大、地域社会の公器としての持続的発展を図るものである。					
	1. 「経営学部教育目標」「3ポリシー」の実践	新経営学部構想における「学部教育目標」と「3ポリシー」の確認と、コースごとの「育てたい人物像」を各コースごとに小グループで検討する。	新経営学部の教育目標、3ポリシー、育てたい人物像について、教務委員会は、新経営学部構想の策定結果待ちの状態である。	新経営学部の「学部教育目標」と「3ポリシー」について、教務部長、副学長、キャリア系教員などと相談し、構想の最終段階にある。現経営学部と大きな変更はないものの次年度の新体制のもとで新経営学部構想の策定を確定する。 コース名等にも若干の変更がある。	◎学部長（佐野） ●教務委員長（高橋） ●副学部長（山田） △教務課（林・中村） △入試課（齊藤）	
2. 学生一人ひとりにとっての、卒業までの有効な学修の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・教務システム内の学生ポートフォリオデータの拡充と活用促進。 ・父母等ポータルサイトの整備と学生ポータルとの連携。 ・学生ポータルへの学業成績データ以外の大学生活の活動状況の入力。 	<p>問題を抱える学生について、ポータルなどに情報を集約することで、各教員が学生の様子に対して「気づき」を持てるような運用体制の構築が急務となっている。</p> <p>その中で、大学に対して配慮願が出ている学生に関する対応策を学生委員会で検討しており、配慮学生の学修支援という視点を重視した対応策を検討し始めている。</p> <p>父母等にも学生ポートフォリオの共有を行うために公開情報の検討をした。</p> <p>教職員間で学生ポートフォリオの共有を行うために、職責に対応した共有権限を設定した。</p> <p>アドバイザーウィークでの学生面談実施について教務部長より全教員に対して通知した。これを受けて、面談の実施状況の調査を行うとともに、面談結果のポートフォリオへの記入の徹底を促した。</p>	<p>学生ポータルへのデータ入力と教員による閲覧、相談、コミュニケーションの積極化は大事な支援につながっている。状況に応じて、キャリア支援、カウンセラー、支援課職員への情報共有と連携支援もかなり効果を上げており、サステナブルな支援体制はできつつあるといえる。システムでは父母との連携システムも開設され、支援の広がりもできている。「学生への合理的配慮」の体制も義務化に際して新しい仕組みや組織体制を準備しつつあり、支援体制に厚みが整いつつある。</p> <p>さらに、大化け教育資金貸与制度の実現に向けて規程やガイドラインが整備されつつあり、成長を遂げようとする学生への資金的支援体制も充実しつつある。</p>	◎学部長（佐野） ●教務委員長（高橋） ●学生委員長（田口・山田） △教務課（林・中村） △学生支援課（吉添・井川）		
3. 教育の質保証の向上	PROG、大化けドリル等の外部試験の結果と学生の本学での成績データとの比較を、新経営学部のカリキュラムの作成に役立てる。	PROGは1年生・3年生で実施。学生及び教職員向けに結果の分析報告会を行い教育内容・方法の改善を促している。	PROGの結果を受けて、いままでのカリキュラムの有効性を確認しながら、新カリキュラムに反映させていく。	◎学部長（佐野） ●教務委員長（高橋） △教務課（林・中村）		

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	4. 課外活動の促進 ・学生生活全般を教育と捉え、部活動、サークル活動、ボランティア活動等課外活動を活発化させ、学生の主体性、積極性、規範性、思考力、自信の全般的向上を図る。	学友会の充実、部活動、サークル活動の充実を図り、コロナ禍で縮小された学内外の活動を充実・復活させていく。	新型コロナウイルスに対する制限が撤廃され、学生の学外活動も活気を取り戻しつつある。しかし、活動制限の影響で学園祭を中心とした学友会活動の核となる執行部役員の人数不足が深刻であり、学園祭の充実のみならず、日頃のクラブ・サークル活動の活発化の妨げとなっている。特に文化系クラブ・サークル活動の年間を通じた活動が活性化しない状況での学園祭の充実は難しく、この観点から、学生委員も危機感を共有し、学生への執行部役員への勧誘の声掛けの機会の増加に努めている。	3年ぶりの対面での学園祭の実現は、磐田、藤枝、両キャンパスともに盛況であった。ただ、学友会活動の核となる執行部役員の人数不足が深刻であり、次年度に向けた課題が残る。継承学生のリクルートや育成方法の検討を学友会の学生とともに検討する必要がある。 部活やサークル活動の活性化に向けては、在学生オリエンテーションや新入生オリエンテーションなどの機会を活用して活発な勧誘活動を行い、課外活動の盛り上げを図りたい。部やサークルによる各種大会における団体、個人表彰や目立った活動があった場合には委員会においても奨励、授与式開催、広報を通じて激励支援している。ボランティア活動も、さまざまな団体により実践して頂き、実技面での実績や活躍だけでなく、地域貢献を通じた活動に対しても、支援を強化していくことが重要と考えている。	◎学部長（佐野） ●学生委員長（田口・山田） △学生支援課（吉添・井川）	
	5. 就職実績の維持	就職内定率の維持に加えて、キャリア支援の質の向上を目指し、まずは優良就職先として20社程度の実績をつくる。	現在P L C (Peer Learning about Career) 設立に向け、難関企業へチャレンジする学生と合格実績を増やすことを目的に具体的な準備に着手した。(常葉大学・県立大学との比較、県内人気企業ランキングなどをもとに難関企業を設定、現在企業訪問を実施している。後期には現3年生に対して公募と教員による推薦から学生を募り、月1回程度の勉強会と企業との交流会を実施する予定である。	PLCについては、両キャンパスで教員からの推薦も含め15名の学生が現在参加している。11月に難関企業2社の人事担当者を招致し、経営戦略と採用人材の関連性など貴重な話をうかがうことができた。その後、宮田先生が講師となり、個人、グループごとにワンランク上の志望動機・自己PRの作成を12月～2月にかけて実施した。現在、学生たちは自身の目指す企業の選考にチャレンジしている。	◎学部長（佐野） ●就職委員長（熊王） △キャリア支援課（池ヶ谷）	

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p>6. 入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容、就職実績、入試広報など、教職員一丸となった全学体制で入学者募集力を向上させ、大学・学部の活性化及び経営の安定を実現する。 ・経営学部定員350名以上の入学者の確保実現。 	<p>定員350名以上の入学者確保に向けて、探究プレゼンテーション入試の拡充、高校1・2年生に向けた早期広報活動、学園祭、卒業研究制作展等での経営学部の活動の紹介等を全学的に拡充していく。</p>	<p>指定校推薦入試対象校の拡大 指定校推薦入試受験者を対象に、評定平均の基準を満たせば「特待生A」の資格を付与することで、意欲的な志願者の獲得につなげる。 協定校による特典を見直し、入学金減免および評定平均により特待生資格（A～C）を付与することで、協定校からの出願を促す。 保有リストへのDM等による接触の強化。 外部新規リストを活用し、大学の認知およびオープンキャンパスへの集客を図る。</p>	<p>指定校推薦入試が年内入試においては、昨年度より微増となっている。 年明けの一般入試においてWeb、SNS等の適時適切な活用により出願増につなげていく。 合格者に対しての積極的な情報提供、SNS配信等により、入学辞退防止につなげていく。 今年度の前半の活動を振り返り、次年度の対面式オープンキャンパスの内容の充実、Webオープンキャンパスの内容の充実と告知の工夫等を行うとともに、集客から出願への円滑な流れをつくる（エントリー入試制度の導入、周知の徹底、探究プレゼン入試から探究活用入試の変更の周知）。 系列校・協定校への「探究プレゼン講座」の出張講座（週末、夏休み、放課後などの1日～2日程度の内容で）の実施に向けた準備をする。 ゼミ活動と連携した「探究活動」のワークショップ（未来ラボ等）の告知の工夫をし参加者を誘導する。</p>	<p>◎学部長（佐野） ●副学部長（山田） ●入試課（齊藤） △入試課（吉川） △広報メディア課（佐野）</p>	

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	7. 離学者の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びと諸活動の充実。 ・父母等の連携の充実。 ・経済支援等の拡充（卒業生による基金の活用）。 	<p>学習環境の充実という観点から、2022年度に食堂2階を大幅に改修して以降、学生の居場所づくりに成果を挙げることができた。</p> <p>また、在学生の学業に対する動機づけ向上に向けて、在学特待生制度の拡充の取り組みを開始したところである。</p> <p>アドバイザーウィークでの学生面談の確実な実施を目指し、学生ポートフォリオで教職員全体での情報共有を行おうとしている。これにより、離学に繋がる要因を把握し各部署と連携した対応を目指す。</p> <p>1・2年生全員のキャリア面談を実施中である。これまでの自分を振り返り、学生生活に目的を持って過ごすことを第一の目的としているが、コロナ過での学生の孤立化防止を含め、学生に心配な状況が見られた場合は担当するキャリアコンサルタントから報告を受け、キャリア支援課・保健センターと連携して早期発見と対応を実施している。</p>	<p>学生ポータルへのデータ入力と教員による閲覧、相談、コミュニケーションの積極化は、離学者防止に効果的に働いている。状況に応じて、キャリア支援、カウンセラー、学生支援課職員への情報共有と連携支援もかなり効果を上げており、サステナブルな支援体制はできつつあるといえる。システムでは父母との連携システムも開設され、支援の広がりもできている。「学生への合理的配慮」の体制も義務化に際して新しい仕組みや組織体制を準備しつつあり、支援体制に厚みが整いつつある。</p> <p>さらに、大化け教育資金貸与制度の実現に向けて規程やガイドラインが整備されつつあり、成長を遂げようとする学生への資金的支援体制も充実しつつある。</p> <p>キャリア支援については、1・2年次に加え後期は自発的に就活が出来ない学生へのアプローチと面談に力を入れた。学生の悩みや相談については、担当教員への連絡した他、保健センターの心理カウンセラーと共有連携して、適切な指導方法のアドバイスを受けながら就活支援・修学継続支援を行った。</p>	<p>◎学部長（佐野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生委員長（田口・山田） ●教務委員長（高橋） ●就職委員長（熊王） <p>△学生支援課（吉添・井川）</p> <p>△教務課（林・中村）</p> <p>△キャリア支援課（池ヶ谷）</p>	

項目別アクションプラン					
	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p><教育></p> <p>1. ポータルサイトで入口（入試データ）、在学中（学修データ（GPAを含む）、資格取得データなど）、出口（就職先データ）を一元管理</p>	<p>在学中の学修データについては、学生ポートフォリオへの集約が進んでいるが、入試データ、就職先データについては、集約方法、活用方法、情報セキュリティの観点から検討が必要である。</p>	<p>学生部として、これらの課題に対して直接あるいは主体的に関与できることは少ないと思われる。必要に応じて、他の委員会等と連携しながら貢献をしてゆく予定である。</p> <p>入試システム、教務システム、就職先管理システムがそれぞれ移行段階にあり、DX化の観点からもセキュリティを確保しつつ積極的に一元管理の導入を進める。これらのデータの活用が、入試改革、カリキュラムの策定、各塾の成功には必須である。</p>	<p>◎学部長（佐野） ●教務委員長（高橋） ●学生委員長（田口・山田） ●就職委員長（熊王） ●ICT委員長（久保田） △教務課（林・中村） △学生支援課（吉添・井川） △キャリア支援課（池ヶ谷） △情報システム課（野依）</p>	
	<p>2. 地域連携・アクティブラーニングの推進と探究学習との接続</p>	<p>地域連携・アクティブラーニングの推進については、対応科目やFD研修会など既存の仕組みで充実していきたい。「探求学習」については高校でどのような形態で実施しているか、大学ではどのように継続していくか、説明会や研修会の実施を望む。</p>	<p>地域連携・アクティブラーニングの推進と探究学習との接続について、大学コンソーシアムからの地域連携課題解決の取組や、磐田市、藤枝市との課題解決の取組において複数のゼミが高校生との探究活動を進めて実績を作った。これを足掛かりにさらにいろいろなゼミや専門演習などの中で高校生との探究活動のコラボレーションを進めていく。</p>		
	<p>3. 藤枝キャンパス・BiViキャンの活用</p>	<p>BiViキャンは、ゼミ活動やふじのくに地域・大学コンソーシアムでの単位互換授業で活用している。</p>	<p>BiViキャンは、ゼミ、高校生への探究プレゼン講座、専門演習、ビズネオなどの探究活動の拠点として活用している。ふじのくに地域・大学コンソーシアムでの単位互換授業など、他大学との連携活用を進める。</p>		
	<p>4. 海外研修の充実</p>	<p>台湾、ベトナム、ハワイへの研修を予定している。</p>	<p>ベトナム（引率 岩本准教授・石川紗彩メディア課職員）31名参加（2023年12月19日～23日）、台湾（引率 熊王教授・村松早紀教務課職員）12名参加（2023年12月26日～29日）実施した。次年度に向けては、タイ、台湾などの視察を検討している。海外研修には教員・学生に職員も引率者として参加し、大学一体となった取組として、充実及び、さらなる国際化を図る。</p>		
	<p>5. インターンシップの拡充（地元企業をはじめ、海外インターンシップの準備）</p>	<p>県内中小企業に対して質の高いインターンシップを大学と連携して実施することを目的としたプログラム作成のための勉強会を月に1回計4回実施した。その結果、今夏11社の企業に約30名の学生が参加することになった。</p>	<p>11月に前期に本学と協働でプログラム開発した企業と本学学生のインターンシップ受入れ・実施報告会を行った。地元企業の人事担当者間で各社のインターンシッププログラム実施結果を報告し合うことは大変珍しく、参加企業からはこのような機会があることに対して高い評価をいただいた。次年度も参加企業・学生を増やすこと・質的向上を目指し継続して活動していく。</p>		

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	6. 探究プレゼンテーション入試で入学した学生への指導の拡充	基礎ゼミのアドバイザーの人選については、探究プレゼンテーション講座を担当した教員、または探究プレゼンテーション入試で発表した内容をサポートできる教員を充て1年次から積極的に関連する学内のプロジェクトに参加するよう支援していく。4年間を通して探究の学びを深めることができるように学生の興味・関心を相談しながら専門ゼミナール、卒業研究へと結実していけるよう伴走しつつ育成していく体制を整える。	探究プレゼンテーション入試合格者には、入学前学習において、探究プレゼン講座を担当した教員のゼミ生とのコラボレーションを行った。これにより、入学後に、基礎ゼミ、専門演習、専門ゼミナール、卒業研究などの学びに先輩学生との活動を円滑につなげる体系的体制の形成をした。		
	7. 会計塾・公務員塾・(仮)就職塾の充実	就職塾改めP L C (Peer Learning about Career) の設立準備に着手し、難関企業への訪問・期待人材の確認を実施している。後期には学生募集を行い、月1回程度の勉強会や企業との交流会を予定している。全期間で、計画的に企業訪問を検討し、実行している。	就職塾 (P L C) を開設し、実施中である。ここで得た経験をもとに2024年度はさらに内容を充実させ、難関企業合格者の輩出を目指す予定である。公務員塾も今年度も国家・県レベルの合格者を輩出するなど一定の成果が得られている。次年度は学びの強化 (筆記対策に加えて面接と小論文対策、夏合宿の実施など学生の意欲をさらに高める取り組み) を実施する計画である。		
	8. 「教職課程」「保育士養成課程」「選抜クラス」の効果的運用	1・2年生の「選抜クラス」に対して、特別ガイダンスを実施して、専門ゼミナールの履修、資格取得、海外研修等への積極的な参加を促している。 「選抜クラス」として、基礎ゼミナール以外の授業科目で活動する場が無くなり、学生同士の繋がりが少なくなったのが課題である。			
	<研究>				
	1. 学内紀要の充実	紀要「環境と経営」第29巻第1号は原著論文5本を含む全9本が掲載された。第28巻に引き続き多数の投稿があり、質・量ともに充実しつつある。この傾向が次号も続くよう、センターをあげて努力したい。	紀要「環境と経営」第29巻第2号は原著論文6本を含む査読原稿全9本が掲載された。第29巻1号に引き続き多数の投稿があり、質・量ともに充実しつつある。第30巻では紀要の書式を新たにし、より充実した紀要となるよう、センターをあげて努力していく。	◎学部長 (佐野) ●経営研究センター長 (山田) ●教務委員長 (高橋) △教務課 (林・中村)	原稿申し込み期間や提出期限を柔軟化することによって執筆者の投稿への動機づけを上げる方策を講じていきたい。
	2. 科研費等、外部資金獲得の充実	科研費7件申請し、1件採択結果待ち。その他は不採択となった。	次年度の科研費採択に向けた準備と地元市町からの課題解決依頼に向けたニーズの調査を進めている。		

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p><地域貢献></p> <p>1. 地元市町、商工会議所、地元企業との連携、学生参加プロジェクトの充実 探究学習への接続</p> <p>2. 講座、受託研究など、地域貢献の可能性の検討及び充実</p>	<p>学生参加型のプロジェクトについては、ゼミ担当教員の方針と尽力に任せているのが現状である。</p> <p>経営学部教員に対し、それぞれの専門性を活かし協力可能な出張講義や研究などについて情報提供を依頼。入手した情報を入試課と共有し、その内容をもとに今後、地元市町、近隣企業や教育機関からの要請に応え、探究の学びをキーワードに活動を展開していく準備を進めている。</p>	<p>学生部として、これらの課題に対して直接あるいは主体的に関与できることは少ないと思われる。必要に応じて、他の委員会等と連携しながら貢献をしてゆく予定である。</p>	<p>◎学部長（佐野） ●学生委員長（田口・山田） ●教務委員長（高橋） △学生支援課（吉添・井川） △教務課（林・中村）</p>	
	<p><入試></p> <p>1. 入学者層のレベルアップを図りつつ、入学定員350名以上の確保</p> <p>2. 特待生入試の効果的活用 探究学習出張講座の活用</p>	<p>ゼミ・卒業研究の学びを高校の探究学習と接続しながら、積極的に高校との連携を強化していく。</p> <p>年内入試での早期入学者確保に向けて、特待生入試のオープンキャンパスとの連携強化、探究プレゼンテーション入試との連携強化に努める。1 day探究学習講座を実施した。</p> <p>探究学習出張講座の紹介パンフレットを作成し、高校に配布した。入試課と切り離れた窓口で地域の探究学習を支援し、経営学部の認知向上に努める。さらに高校との探究連携の実例紹介と今後の連携申込用Webサイトの充実を図る。</p>	<p>次年度に向けて探究プレゼン入試の変更を行った。2日間実施を1日に、名称を「探究活用入試」とし【プレゼン型（専願）（特待生選考）】と【ミニレポート型（併願）（一般選考）】の2つのタイプに分けた。プレゼン講座を4日間から2日間程度に短縮することとした。ただし、出張型プレゼン講座、単位との連携はしないなどの補完措置を検討している。プレゼン型（特待生選考）では、特待生に選ばれなかった受験生の一般合格枠をつくることとした。次年度からは、4月～8月のオープンキャンパス参加者を対象としてエントリー入試を実施することとした。経営学部はオープンキャンパス時に実施する面接は何回でもチャレンジ可とする。</p> <p>探究学習出張講座だけでなく、ゼミなどの連携で高校生参加型の探究講座（未来ラボ）の実施を拡充する。</p>	<p>◎学部長（佐野） ●副学部長（山田） △入試課（齊藤）</p>	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<就職> 1. 「就職に強い静産大」の評価の継続	就職内定率だけでなく、質的向上を目指し P L C (Peer Learning about Career) 設立準備に着手した。全期間で、計画的に企業訪問を検討し、実行している。	内定者速報版を全面リニューアルし、内定先の紹介に加え内定に至るまでのプロセスを掲載するとともに内定学生と関わりのあった教員や職員などのエピソードも含め P R することとした。また父母等の声として、本学に通ったことで大化けした(成長した)姿についてのコメントを掲載して、学生・本学・家族が一体となった手厚い就職支援「就職に強い静産大」のアピールにつながっている。完成した内定者速報版は、入試課を通じて12月に高校生に向けて発送した。	◎学部長(佐野) ●教務委員長(高橋) ●学生委員長(田口・山田) ●就職委員長(熊王) △教務課(林・中村) △学生支援課(吉添・井川) △キャリア支援課(池ヶ谷)	
	2. 資格取得サポートセンターの活用	資格取得サポートセンターを設立し、学部長を始め関係者との連携方法を確認した。1年生の基礎ゼミを活用し、資格取得サポートセンターの周知を図り、後期には資格とキャリアを連動させた企業との交流会をふじのくに地域・大学コンソーシアム事業として実施する予定である。	11月から現在にかけて学内を横断した資格・免許取得支援に関する情報の整理・学内外への広報活動を P J T チームを立ち上げ実施中である。2024年度は通年を通して教職員・課が連携して学びの支援、動機付け・参加の声掛けを強化していく。また12月にふじのくに地域大学コンソーシアム事業の一環として「資格×キャリア」と題して学生と企業の交流会を実施した。これには、地元企業11社と県内5大学・39名の1・2年生を中心とした学生が参加し、資格を取得だけでなく、将来キャリアとのつながりを知ることでより目的をもった学びへの取組と新たな企業を知る機会となった。		
	3. 卒業生との連携強化	卒業生との連携強化には、同窓会の協力が不可欠である。また、後援会も学生の就職活動の資源として有用である。しかし、同窓会活動そのものも、現状活発な活動とは言えず、就職に関する卒業生の関与の機会は限定的である。同様に後援会活動も就職支援とは連携していない。今後は、親睦団体としての同窓会・後援会活動だけでなく、大学本体の就職支援の意味合いにおいても、同窓会や後援会の協力が得られるように働きかけていく。	同窓会との連携については、前期同様、連絡が活発でないこと、同窓会や後援会を通じた就職活動への支援体制が未構築であることなど、今後に向けて、課題が認められる。ただし、教務システムにおいては「父母との連携」がシステム化され、父母とのコミュニケーションを通じた学生支援は積極化されている。今後は、就職につながる支援機関として、同窓会や後援会を位置づけ、さらなる支援体制の在り方を図っていく必要がある。		

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p><広報></p> <p>1. 経営学部の磐田キャンパス・藤枝キャンパスの特色を明確化</p>	<p>学生部（学生委員会）としては、関係する各センターや委員会等と連携して貢献してゆく予定である。</p> <p>磐田キャンパスでは、ものづくりが盛んな地域である特長を活かして、地元の工業製品、農業製品に付加価値を与えて市場に提供し、流通を盛んにしていく人材を育成することに特色をおく。加えて、スポーツが盛んな地域である特長を活かして、スポーツイベント、スポーツ用品、ファッション、さらには新しいスポーツの可能性とスポーツ器具の開発などに貢献する人材を育成することも特色とする。さらに三遠南信地域の歴史・文化・景観を活かした観光資源の掘り起しと、スポーツリゾートとしての魅力を発信できる人材を育成することも特色とする。</p> <p>藤枝キャンパスでは、ICT活用と地元産業の交流に力を入れている市政と協力し、データサイエンス・AIに強い産業人の育成を特色とする。県都静岡市に近い特徴を活かして、地域の交通機関、商業施設と連携して県内の人流・物流・経済をデータから的確に読み取り、一大商業圏におけるモノとコトの双方に付加価値を与え豊かな生活（ウェルビーイング）に反映できる人材の育成も特色とする。さらに中部・東部地域の歴史・文化・景観を活かした観光資源の掘り起しと、海・山・温泉などのリゾートとしての魅力を発信できる人材を育成することも特色とする。</p>	<p>学生部として、これらの課題に対して直接あるいは主体的に関与できることは少ないと思われる。必要に応じて、他の委員会等と連携しながら貢献してゆく予定である。</p> <p>磐田キャンパスでは、新経営学部の心理経営学科「ものづくり感性コース」において、ものづくりが盛んである地域の特長を活かして、地元の工業製品、農産物に付加価値を与えて市場に供給し、流通を円滑にしていく人材の育成を目指していくよう進めている。加えて、経営学科「スポーツビジネスコース」において、『スポーツのまち』である特長を活かして、スポーツイベント、スポーツ用品、ファッション、さらには新しいスポーツの可能性とスポーツ器具の開発などに取り組む人材の育成を目指していくよう進めている。さらに経営学科「地域ビジネスコース」において、三遠南信地域の歴史・文化・景観を活かした観光資源の掘り起しと、スポーツリゾートとしての魅力を発信できる人材の育成を目指していくよう進めている。</p> <p>藤枝キャンパスでは、経営学科「AIデータサイエンスコース」において、ICT活用と地元産業の融合に力を入れている市政と協力し、データサイエンス・AIに強い産業人の育成を目指していくように進めている。そして経営学科「地域ビジネスコース」において、県都静岡市に近い特長を活かして、地域の交通機関、商業施設と連携して県内の人流・物流・経済をデータから的確に読み取り、一大商業圏におけるモノとコトの双方に付加価値を与え豊かな生活（ウェルビーイング）に反映できる人材の育成を目指して進めている。さらに経営学科「観光・文化コース」において、県中部・東部地域の歴史・文化・景観を活かした観光資源の掘り起しと、海・山・温泉などのリゾートとしての魅力を発信できる人材の育成を目指して進めている。</p>	<p>◎学部長（佐野）</p> <p>●学生委員長（田口・山田）</p> <p>●副学部長（山田）</p> <p>△学生支援課（吉添・井川）</p> <p>△広報・メディア課（佐野）</p> <p>△高大連携・接続G（齊藤）</p>	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p>2. 経営学部の「実学教育」「ICT」「データサイエンス」「デザイン」「心理」「保育」「スポーツ」「就職」「地域志向」等の特徴を強調</p>	<p>「実学教育」 ・教室での学びだけではなく、教室を飛び出した近隣の企業・市町の公共団体とのさまざまなプロジェクトを通して学ぶことを重視している。（空き缶自動販売機、大絵馬、和菓子バル、センキョ割、さんだいおんがくとどけ隊、しっぺい太郎伝説（幼児教材）・・・など） ・資格取得サポートセンターを通じて在学中の資格取得を後押ししている。</p> <p>「ICT」「データサイエンス」 ・ICTを活用したデータサイエンス教育を通してマーケティング（市場調査、戦略設計、広告宣伝、効果検証）に強い人材を育てている。 ・地元企業、市町と連携し実データを使ったリアルな事象の分析を取り扱うことを重視している。</p> <p>「デザイン」 ・地元企業、団体の要請に応え、デザインを通して付加価値を高めることを重視している。（缶詰自動販売機、大絵馬、森町手提げ袋、和菓子バルポスターなど）</p> <p>「心理」 ・ビジネスにおける心理学の応用に重点を置いて、消費者心理やビジネスパーソンの心理、ビジネスリーダーの心得などを学ぶことに特徴がある。</p> <p>「保育」 ・経営学部にある保育士養成課程(2024年度入学生)として経営学の素養を身に着けた保育士を輩出することに特徴がある。 ・スポーツ保育との連携により、身体活動にも能力の高い保育士を輩出することに特徴がある。</p> <p>「スポーツ」 ・「スポーツのまち」磐田市にある経営学部として広くスポーツビジネスを学べる環境に特徴がある。 ・「スポーツ」を競技としてだけでなく、イベント、ファッション、文化、歴史など、さまざまな面から捉えてビジネスと融合することを学べることに特徴がある。</p>	<p>「実学教育」 ・大学コンソーシアム、市町からの課題解決、協同研究の依頼に応じて、専門演習、専門ゼミナール、卒業研究などにおいてさまざまなプロジェクトを実施した。 ・資格取得サポートセンターを拡充し、在学中の資格取得を後押しするとともに、各種塾への有効活用を支援する準備を進める。</p> <p>「ICT」「データサイエンス」 ・数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム（リテラシレベル）の申請を準備している。</p> <p>「デザイン」 ・岩田神社の大絵馬（辰年・龍のデザイン）を奉納した（2023年12月16日）。</p> <p>「心理」 ・「心理経営学科」のカリキュラムの精査を進めている。</p> <p>「保育」 ・「保育士養成塾」を立ち上げるとともに保育系の学びを学部の枠を超えた全学科目の位置付けとすることで多くの学生が履修しやすい形としていく。</p> <p>「スポーツ」 ・「スポーツビジネスコース」のカリキュラムの精査を進めていく。</p>		

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	3. 大学祭やBiViキャン等を利用した本学の教育活動及び研究成果の積極的発信	<p>「就職」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い就職率だけでなく、質の高い就職、学生の満足度の高い就職につながる学びができることに特徴がある。 <p>「地域志向」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の企業、市町と連携した課題解決に向けたプロジェクトの学びを通して、地元にはしっかりと根差した地域志向の学びができることに特徴がある。 ・地元を「豊かなまち」にすることを重視した学びを展開していることに特徴がある。 <p>以上をふまえた広報の展開に着手していく予定である</p> <p>BiViキャンにおいて、卒業制作展を実施予定である。</p>	<p>「就職」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、県庁、警視庁、県警本部、藤枝市役所、沼津市役所、牧之原市役所、菊川市役所、金融機関など学生の満足度の高い就職先への就職が実現している。 <p>「地域志向」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の産学官連携による課題解決に向けたプロジェクトを実施し、地域志向の学びを展開した。 <p>BiViキャンにおいて、2024年1月27日～28日に卒業研究制作展を実施し、卒業研究の成果をパネルにして展示、卒業制作の作品を掲出した。同時にメタバースを用いて展示をバーチャル空間にも設置し多くの閲覧者を得た。</p> <p>キャンパスごとに特色ある学園祭（蒼樹祭・鵬翔祭）を実施した。</p>		
	<p><大学運営></p> <p>1. 学部間連携の拡充を行いながら、一方でそれぞれの学部の特徴の差別化</p>	<p>スポーツマネジメントコースの主要科目を見直し、学部間の科目の重複を避けるとともに経営学部の特色を生かしたスポーツマネジメントコースの科目を設置する。</p>	<p>継続してスポーツビジネスコースの主要科目の精査を進める。</p>	◎●学部長（佐野）	

将来構想						
項目	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点	
経営学部	1. 大学のブランド形成	<p>実学教育の成果を強調しながら、地元市町や企業とのプロジェクトの成果を踏まえて経営学部の探究学習を通じた地元高校との協力体制を構築しながら、地域貢献の訴求を推進する。</p> <p>資格取得サポートセンターを活用し、実学教育の充実を広報していく。</p>	<p>探究学習出張講座のパンフレットを作成した。今後は、これまでのプロジェクトの成果を分かりやすく説明したリーフレットや、Webサイトの作成により、経営学部の探究学習支援、協力体制を整備し、ゼミと高校との接続・連携を強化していく。学園祭、ゼミ・卒業研究制作展などの展示を通して活動の浸透を図る。</p> <p>会計塾・公務員塾・就活塾（Sチャレ）を開設した。資格取得サポートセンターを窓口として、これらの学内外への周知に努めているところである。</p>	<p>専門ゼミナール、卒業研究、専門演習などでさまざまなプロジェクトを実施し成果を得た。そのいくつかは、BiViで開催された卒業研究制作展において展示し紹介した。紹介できていないプロジェクトについてもWeb、映像等で引き続き紹介していく。</p> <p>各塾に加えて、低学年からキャリア教育に関する基本知識（キャリア形成について・働くこととは・労働法の一般知識）と地元企業との交流の機会（産学連携のイベント実施）、キャリア教育プログラム・インターシップ参加促進などキャリア教育で大学と地元企業を繋ぐ取り組みを両キャンパスで実施している。継続実践している取組も複数あり、企業からの協力依頼が増加していることや低学年時に参加した学生が当該企業に就活で訪問するなどのリターン効果が出始めている。</p>	<p>◎学部長（佐野） △教務課（林・中村） △キャリア支援課（池ヶ谷） △広報・メディア課（佐野）</p>	
	2. キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育	<p>新経営学部に向け、全教員参加のもと学部・学科・コースのコンセプトを明確化し、真に地域に求められる教育体制を構築する。</p>	<p>教務委員会は、新経営学部構想の策定結果待ちの状態である。</p>	<p>新経営学部において磐田キャンパスでは、経営学科に「経営コース」「会計コース」「地域ビジネスコース」「スポーツビジネスコース」を心理経営学科に「ビジネス心理コース」「ものづくり感性コース」を設置、藤枝キャンパスでは、経営学科に「経営コース」「会計コース」「地域ビジネスコース」「AIデータサイエンスコース」「観光・文化コース」を心理経営学科に「ビジネス心理コース」「ものづくり感性コース」を設置し、それぞれのキャンパスの特長を活かした学びを展開していく。</p>	<p>◎学部長（佐野） ●教務委員長（高橋） △教務課（林・中村）</p>	

	項 目	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	3. 2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上	<p>・遠隔授業(オンライン、ハイブリッド、ハイフレックス)の充実と活用を推進する。</p> <p>・BiViキャンの積極的活用。</p> <p>・会計塾、公務員塾、就職塾(仮)のキャンパス間連携の推進。</p> <p>・教育のDX化の推進。</p>	<p>対面授業が主となっているが、一部科目はこれまでに引き続き遠隔授業として実施されている。</p> <p>また、藤枝キャンパス開講の一部科目(前期8科目)をBiViキャン(対面)・藤枝キャンパス(同時双方向式配信)のハイフレックス方式で実施した。</p> <p>会計塾についても、商業簿記と工業簿記の授業を藤枝キャンパス(対面)・磐田キャンパス(同時双方向式配信)で実施している。</p> <p>教育のDX化については、ICT研究機構長がキャップとなって策定中である。その一環として、機構長が高等学校を視察し推進会議において情報共有がなされたほか、1人1台PCを持参させるICT教育の実施について検討が進められている。また、学内の設備面に関しては、4月の授業開始にあわせて両キャンパスのパソコン教室のうち1教室を更改したほか、プロジェクター等のAV機器の更改を進めている。</p> <p>前期では、試験的に午前の科目を一部ハイフレックス授業として実施した。様々な調整点を整理し、今後の活用に努めていく。</p> <p>資格取得サポートセンターを両キャンパスに設置した。今後、学生への周知とキャンパス間の効率的な運用に勤めていく。</p> <p>LMS(Learning Management System)の積極的活用と学生の学びの様子のデータをIRに生かす体制を構築する。</p>	<p>前期に引き続き、一部科目は遠隔授業として実施されている。また、対面授業の一部の回を遠隔授業に切り替える等の方法でも活用されている。</p> <p>ゼミ活動(学外研修)、卒業研究制作展等の行事に活用している。</p> <p>資格取得サポートセンターの効率的な運用に向け、キャリア支援課、教務課が連携して準備を進めている。</p> <p>前期に引き続き、授業資料の配布等でのLMSを活用している。</p>	<p>◎学部長(佐野)</p> <p>●ICT委員長(久保田)</p> <p>△教務課(林・中村)</p> <p>△情報システム課(野依)</p>	<p>BiViキャンの活用、資格取得サポートセンターの運用にかかわる事項は、就職、総研、情報デザイン研究センター(卒業研究制作展関係)等にも関連すると考えられることから、進捗報告の担当者に関する整理が必要と思われる。</p>